

特別講演

“まちづくり”として取り組む地域医療

座長 河 合 勝

今回の日本プライマリ・ケア学会近畿地方会のメインテーマは「希望としての地域医療連携とケア」でした。このテーマに即して奈良県医療政策部部長武末文男先生に「まちづくりとして取り組む地域医療」と題して特別講演をいただいた。

先生は、2010年代は地域医療が医療界の最大課題であるとして地域の医師不足、搬送困難事例などの例を挙げ医療問題の所在が“医療機関”の外に移りつつあると話された。問題解決には、医療連携（病病・病診）、救急搬送のルール化、在宅医療など、病院間、病院外において医療を提供する必要があるとした。このための手法として地域レベルで全体として医療を提供する必要があるとお考えを述べられた。医療の周辺を支える環境が整うことにより、地域医療は、病気になったとしても生活基盤である地域で住民とともに療養生活することができるまちづくりが重要課題であるとした。

医師は、患者個人に対する治療責任のもと、医療に取り組むものであり、教授・院長でさえ権限

と責任は、大学・医療機関内に限定される。一方、行政（自治体）の権限と責任は、各自治体の全域に及ぶことから、地域医療は、地域という広大なエリアを対象とするけれども地域の実態について把握することは可能である。ただ行政は医療に関する知識には乏しいため、医療関係者との協働は不可欠である。さらに住民の主体的な医療への参加、そして、他職種との協働が必要になると結論付けた。これらの講演内容はまさしくわれわれの医師会が取り組んでいる基本的な考え方であると自信を深めた。



特別講演講師 武末文男先生



座長 河合会長